

広島県鉄構工業会

鉄骨製作部会開く

【広島】広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・エプソントス社長）はこのほど、広島市内の広島工業大学広島校舎で「2019年度第2回鉄骨製作部会」を開催、フアブリケータなど約20人が参加した。今回は、清水斉・広

つき高力ボルトのボルト径プラス3^ミの1面摩擦接合およびブラケット部の孔径測定「開先面専用防錆塗装の溶接性への影響」に関する実験の手順を説明し、結果を報告した。

高力ボルトの穴は建築基準法でボルト径プラス2^ミ以下と定められている。腐食を防ぐために亜鉛めっきを施すと、ボルト径が大きくなり、接合が難しくなる。作業効率を損なわないようボルト穴を拡大しても強度に影響がないかを実験。18年

に摩擦面を2力所持つ2面摩擦接合で、ボルト穴を2^ミ3^ミに拡大しても基準を満たすことが分かったが、今年実施した1面摩擦接合では基準を満たせなかったことを報告した。

建築鉄骨工事の現場溶接で、さびを防ぐために開先防錆剤が使われるが、メーカー推奨とは異なる条件での使用も多い。さまざまな場合を想定し溶接欠陥の状況を確かめ、許容範囲に収められる条件を探った。

広島県鉄構工業会は中国地区の大学や日本建築学会中国支部と連携し「鉄骨製作部会」を結成。建築鉄骨工事の現場での負担軽減や作業効率の向上につながるよう、建築基準法の規定と異なる条件でも安全性などの基準を満たすかを実験、データ収集を行っている。



鉄骨製作部会の様子

2019年11月26日付
日刊産業新聞